

昭和初期

夢を結ぶ交通の動脈

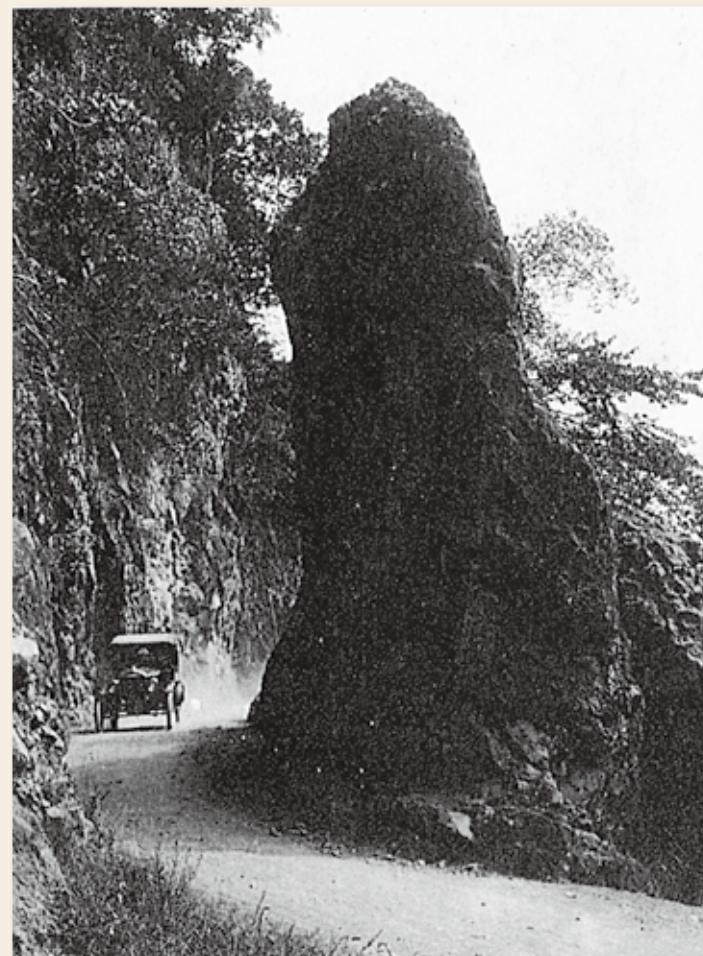


創業まもないころの堀川バス本社（八女）

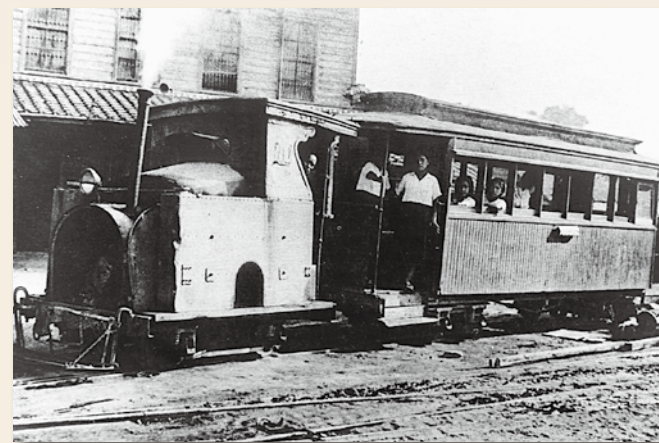
大正時代の末期になると、八女にも自動車の姿が見られるようになりました。大正11（1922）年には、福島で12～13台あったとされ、主に当時操業し始めたタクシー業者が保有していました。昭和2（1927）年には、上陽に最初のトラックが走ったと記録にあります。翌年の昭和3（1928）年には、福島・合ノ原間を結ぶ乗合自動車、昭和6（1931）年には、黒木と久留米を結ぶ堀川自動車の久留米線も開通しました。昭和10（1935）年頃から星野にも乗合自動車走り始め、同15（1940）年には長野・浦間を結ぶ路線も開通しました。少しずつ交通網が充実していき、今に続くモータリゼーションの時代がスタートしたのです。

昭和11（1936）年には、国鉄矢部線の設定が決定しました。一方、大正5（1916）年から昭和15年まで「黒木軌道」を走り続けた南筑軌道の機関車は、ボンボンと音を立てて走るの、 “ボンボン軌道”の愛称で親しまれていました。

文化面の話題としては、昭和6年に久留米出身の坂本繁二郎画伯が、福島に定住することになりました。昭和11年には八女近在の画家たちが画伯を迎えて「新人会」を結成しました。昭和3年には、後征西將軍 良成親王のお手植と伝えられた「黒木の大藤」が国の天然記念物に指定されています。



（昭和初期）こうもり岩のそばを走る幌つきバス（星野）



ボンボン軌道（昭和初期）
大正5年から昭和15年まで走り続けた南筑軌道の機関車と客車。（黒木）



中川内のお宮を立て直す時の石突（上陽）



宮の尾橋 皇紀2600年祝典稚児行列（矢部）



千間土居
元禄8（1695）年に築かれたこの堤防には補強のために竹木が植えられた。（立花）



昭和10年頃の星野金山 金山寮と乗合自動車（星野）



国鉄C11形蒸気機関車試運転 筑後福島駅（八女）



横山村八重谷に建設されたタケノコ缶詰工場（上陽）